

令和8年度「全国学生調査」実施要領

令和8年3月13日

1. 基本方針

急速な少子化の進展等により、高等教育を取り巻く環境は大きく変動している。こうした中、各大学には、社会が期待する役割や求める人材像を自ら把握し意識しつつ、規模や立地、知名度等による入学者選抜の選抜性の高低によらず、教育研究の質の高度化に向けた取組について、国際社会を含む外部から適切な評価を得ていくことが、これまで以上に求められている。

このような状況を踏まえ、学修者本位の教育への転換を目指す取組の一環として、「全国学生調査」の意義はますます高まっている。本調査は、学修の主体である学生の視点から、大学教育や学びの実態を把握し、その結果を各大学の教育改善に生かすとともに、我が国の大学に対する社会の理解を深める一助とすることを目的とする。

2. 調査対象

参加意向のあった大学（短期大学を含む）に在籍する学部（短期大学は学科）の2年生及び最終学年生（短期大学は最終学年生のみ）

※大学院大学、通信制大学は対象外とする

※令和6年度より募集を停止した学部は対象外とする

3. 調査実施時期

本調査は毎年度実施することとし、令和8年度調査実施時期は、令和8年10月頃～令和9年3月末とし、このうち各大学において1か月程度の期間設定を推奨する。

但し、後掲の「4. 調査方法」の調査方法②の調査実施時期は、各大学の判断で令和8年4月～令和9年3月末に設定することができる。

※令和8年度調査に関する「意向等確認調査」については、6月頃に別途連絡する予定

4. 調査方法

参加大学が以下の調査方法①～②から選択する。

調査方法①：文部科学省が実施するインターネット（WEB）調査（文部科学省が指定するURLに学生が直接回答）

令和8年10月頃～令和9年3月末

※上記日程のうち、各大学において1か月程度の期間設定を推奨。

調査方法②：参加大学が実施する学生調査（大学独自の学生調査の中に本調査の質問項目を設定）
令和8年4月～令和9年3月末（但し、3月末までに回答データをシステムにてアップロードすること）

※各大学の判断で、令和8年度中に実施する各大学独自の学生調査を活用することができる。

《留意点》

調査方法①について

- ・各大学が大学独自の質問項目をシステムに追加することができる。
- ・二重回答の防止について、同一端末からの回答を排除する等技術的な対応を行っている（別端末で回答した場合は、同一学生が複数回回答できてしまうため注意）が、各大学において、重複回答を行わないよう学生への周知を行う。
万が一、重複回答により学部単位で回答率が100%を超えた場合、当該学部はポジティブリストの対象外となる。

調査方法②について

- ・各大学は、調査結果を取りまとめ、3月末までに回答データをシステムにてアップロードする。
- ・各大学は、学生に対して、参加大学が実施する学生調査の中で全国学生調査の質問項目が含まれることを説明する。
- ・回答データのアップロードにあたっては、各大学において個人を特定する情報を削除した上で、文部科学省が別途指定する様式にて提出する。その旨は、学生に対して丁寧に説明する。

5. 質問項目

当面、原則として、令和7年度「全国学生調査（本格実施）」の質問項目（選択式33問程度、自由記述式1問）から変更しない。

《留意点》

調査方法①について

- ・本調査の自由記述の回答については、学生による回答後、文部科学省にて個人が特定されない形でマスキング処理を行った上でシステムを介して提供する。

調査方法②について

- ・調査結果の比較分析ができるよう、各大学独自の学生調査では、本調査の質問項目（選択肢の文言・順番・番号を含む。）は変更せず同じ文言に設定すること。
※具体的には、以下の点に留意すること。
 - ①同じ文言ではない各大学独自の質問項目を本調査の質問項目として読み替えること。
 - ②本調査の質問項目の要素を分離して、各大学独自の学生調査を実施すること。
 - ③本調査の質問項目の選択肢数（4件法）を変更すること。
 - ④各大学独自の学生調査における自由記述式の回答を全国学生調査の選択式に置き換えること。
- ・各参加大学は、大学独自の質問項目を、本調査の質問項目に加えて、別に設定することができる（当該回答データ等の提出は不要）。その際、質問項目の順序変更は可とするが、全国学生調査の質問項目を参加大学独自の質問項目とは区別して学生に提示するなど、学生が全国学生調査の質問項目を把握できるようにすること。

6. 調査結果の取扱い

(1) 文部科学省ホームページで公表するもの

○ポジティブリスト

- ・下記の集計基準に合致した参加大学の学部（学科）のうち、問1～4の各質問項目において肯定的な回答割合が高かった学部（学科）を分野別に上位順（有効回答者数が一定数に満たない学部（学科）は除く）で一覧化するとともに、これらの大学・短期大学の教育方法・教育改善の取組事例を公表する。

※ポジティブリストの対象となる大学に対して、公表の同意確認は行わない。

※学部単位で回答率が100%を超えた場合、当該学部はポジティブリストの対象外とする。

○全体のグラフやレーダーチャート等の視覚資料

- ・「全体の回答状況」、「設置者別」、「学部分野別」、「学年別」、「設置者別+学部規模別」の回答状況の組み合わせ等、調査結果の活用に資する形での集計を行い、公表する。

○意向等確認調査において、「結果公表の同意」が得られた大学の回答全体の集計結果（参加大学の学部ごとに全ての質問項目（自由記述を除く）における選択肢の回答結果）

- ・結果公表の同意確認は、本調査への参加意向等確認調査時に、大学単位（※一部の学部のみ）の同意の場合には不可）で行う。

(2) 参加大学への提供

○参加大学ごとのグラフやレーダーチャート等の視覚資料

参加大学に対して、当該大学に在籍する学生の回答を一覧化したものや当該大学の調査結果の分析の際に活用できる資料を調査結果として提供する。

【集計基準】

対象学部の学生数が、

「 60 人以上 80 人未満のとき、有効回答者数 30 人以上」

「 80 人以上 200 人未満のとき、有効回答者数 40 人以上」

「 200 人以上 600 人未満のとき、有効回答者数 50 人以上」

「 600 人以上 のとき、有効回答者数 60 人以上」

又は「 60 人未満 のとき、有効回答率 50 %以上」

7. 参加に係るインセンティブ設定について

(1) 大学教育再生戦略推進費（再推費）

令和9年度の再推費に係る申請・採択等において、本調査への参加や結果公表を要件とすることを予定しており、具体的な内容等については、今後、各事業の公募要領等においてお示しする予定である。

(2) 私学助成

私立大学等経常費補助金においては、教育の質に係る客観的指標の一つとして、全国学生調査の調査項目（学生の大学での学修内容や経験、大学教育を通じて身についた知識・能力、大学での学びに関する意識等）について調査の実施、結果公表していることを指標の一つとしており、令和8年度において、引き続き、「全国学生調査」への参加及び結果公表の観点を経験を指標に組み込むことを予定しており、具体的な内容については、今後、文部科学省からお知らせする予定である。

8. その他

万一、調査方法や質問項目等の変更を行う場合は、十分な時間的余裕をもって予告する。

令和8年度「全国学生調査」質問項目

(選択式33問・自由記述式1問・所要時間：約10分)

文部科学省では、学生の皆さん一人一人の学びの実態を把握し、大学教育を改善していくための「全国学生調査」を実施します。(この調査では短期大学も「大学」と表記します。)

いただいた回答は、匿名により個人が特定されない形で所属大学へ提供し、各大学の教育改善に活用していただきます。(本人以外はどなたが回答したか分かりません。)

この機会に、皆さんの声をぜひ聞かせてください。

※二重回答がないよう、お一人1回の回答を厳守をお願いします。

※2年生の方については、5-2は表示されませんが、回答不要の設問ですので誤りではありません。

0-1 あなたが在籍する学部等(短期大学は学科等)を選択してください。

0-2 あなたが在籍する学科等(短期大学は専攻等)を選択してください。

0-3 あなたの学年を選択してください。

問1 大学に入ってから受けた授業で、次の項目はどのくらいありましたか。

(選択肢：4:よくあった、3:ある程度あった、2:あまりなかった、1:なかった)

1-1 理解がしやすいように教え方が工夫されていた。

1-2 予習・復習など授業時間外に行うべき学習が指示される。

1-3 課題等の提出物に適切なコメントが付されて返却される。

1-4 グループワークやディスカッションの機会がある。

1-5 質疑応答など、教員等との意見交換の機会がある。

1-6 ティーチングアシスタントなどによる補助的な指導がある。

問2 大学在学中に経験した以下の項目はどの程度有用だったと感じますか。経験していない場合は0を選択してください。

(選択肢：4:有用だった、3:ある程度有用だった、2:あまり有用ではなかった、1:有用ではなかった、0:経験していない)

2-1 インターンシップ(5日間以上)

2-2 海外留学・海外研修(短期も含む)

2-3 主に英語で行われる授業の履修(語学科目を除く)

問3 大学教育を通じて、次のような知識や能力などが身に付いたと思いますか。

(選択肢：4:身に付いた、3:ある程度身に付いた、2:あまり身に付いていない、1:身に付いていない)

- 3-1 専門分野に関する知識・理解
- 3-2 将来の仕事につながるような知識・スキル・態度・価値観
- 3-3 文献・資料を収集・分析する力
- 3-4 論理的に文章を書く力
- 3-5 人に分かりやすく話す力
- 3-6 外国語を使う力
- 3-7 数理・統計・データサイエンスに関する知識・技能
- 3-8 問題を見つけて解決方法を考える力
- 3-9 他者と協働する力
- 3-10 幅広い知識、ものの見方
- 3-11 異なる文化に関する知識・理解

問4 これまでの大学での学び全体を振り返って、次の項目についてどのように思いますか。

(選択肢：4:そう思う、3:ある程度そう思う、2:あまりそうは思わない、1:そうは思わない)

- 4-1 卒業時まで身に付けるべき知識や能力を意識して学修している。
- 4-2 授業アンケート等の学生の意見を通じて大学教育が良くなっている。
- 4-3 教職員が熱心に教育に取り組んでいる。
- 4-4 大学の学びによって成長を実感している。

問5 今年度後期の授業期間中の平均的な1週間(7日間)の生活時間は、それぞれどのくらいですか。

(選択肢：1:0時間、2:1-5時間、3:6-10時間、4:11-15時間、5:16-20時間、6:21-30時間、7:31時間以上)

- 5-1 授業への出席
(実験・実習、オンライン授業を含む)
- 5-2 卒業論文・卒業研究・卒業制作 (0-3で2年生を選択すると非表示)
- 5-3 予習・復習・課題など授業に関する学習
(卒業論文等は除く)
- 5-4 授業と直接関係しない自主的な学習
(学問に関係する読書やディスカッション、実技の練習、資格試験の勉強等)
- 5-5 部活動／サークル活動
- 5-6 アルバイト／定職

問6 本調査や、大学での学びについて意見がありましたら教えてください。(自由記述)【調査方法①のみ】

※匿名調査のため、自分自身や他人の個人情報は入力しないでください。

質問は以上です。御協力ありがとうございました。いただいた回答の集計結果は、[文部科学省ウェブサイト](#)で公表(令和9年秋頃予定)しますので、ぜひ御覧ください。

(大学や社会に対して、個人が特定される形であなたの回答内容が公表されることはありませんので、御安心ください。)

Q & A

調査を実施いただくに当たり、お問い合わせが多くあった質問事項（Q & A）を以下に記載していますので、ご参照ください。

調査対象について

Q 1. 修業年限が6年の学科等について、3年生（または4年生）と最終学年の学生に変更することは可能でしょうか？

A 1. 本調査対象は、2年生と最終学年生を対象としているため、学年の変更は不可となります。

Q 2. 前年度の調査対象であった学生が卒業できず、今年度も最終学年生となるが、調査対象となりますか。

A 2. 昨年度調査に回答した学生であっても、調査時点で2年生・最終学年生になる学生は対象となります。

調査時期について

Q 3. 2年生と最終学年生の調査実施時期が異なっても問題ないか。

A 3. 問題ございません。

Q 4. 調査方法①において、「1か月程度の期間設定を推奨」となっているが、2か月以上の設定を行っても問題ないでしょうか。

A 4. 問題ございません。各大学のご判断にて調査期間を設定ください。

調査方法について

Q 5. 学内での分析に活かすために学籍番号の追記を考えていますが、可能でしょうか。

A 5. 本調査は、学生に対し「匿名回答式のため、個人は特定されない」旨お伝えしております。個人が特定できる質問の追記は不可となります。

Q 6. 回答状況の確認方法はありますか。

A 6. システム内にて学部毎の回答率が確認出来ます。

回答データについて

Q 7. 調査方法①において、学生が回答したデータは自動的に委託業者に送信されるのでしょうか。大学にて回答内容を把握することはできないのでしょうか。

A 7. 回答データは自動的にシステム業者へ送信される仕組みとなっており、回答内容については、随時、管理者システムから回答データをダウンロード出来る機能がございます。ただし、自由記述欄についてはマスク処理が完了するまでは空欄となります。

Q 8. 対象数に対して回答数を上回った（回答率が100%を超えた）場合、取扱いはどのようになりますか。

A 8. ポジティブリストの対象からは除外となりますので、重複回答は行わないよう周知ください。

質問内容について

Q 9. 問5の質問にて、「今年度後期の授業期間中の・・・」となっており、前期に学生調査を実施する場合、「後期」を「前期」に置き換えて回答してよいか。

A 9. 前期に学生調査を実施される場合は、「後期」を「前期」に置き換えて回答いただいて問題ございません。

Q10. 「インターンシップ」や「卒業論文・卒業制作・卒業制作」を行っていない場合、質問から落としてよいか。

A10. 質問項目としてそのまま残した状態で調査を行ってください。

調査結果について

Q11. 結果公表の同意の選択を「無し」とした場合、ポジティブリストにも公表されないのか。

A11. ポジティブリストには公表いたします。ポジティブリストにおける公表の同意確認は、確認を行いません。